



# 年頭所感

静岡県管工機材商組合

理事長 丸尾 氣窮雄

新年明けましておめでとございます。

機械及び機械加工分野は三年連続の好調でまだまだ続くと言われております。一方、管材分野はゼネコンの過当競争のありを受け、その上資材の値上がりのダブルパンチの中、過当競争の結果か、例の詐欺設計事件によって、これから予測される当該施設処理や倒産貸し倒れ等、マンシヨ

販売、ホテル需要において業界全体に与える影響は計り知れません。

新年早々恐縮ですが、想像を絶するような国・地方財政破綻、年金問題、少子高齢化、北朝鮮問題、犯罪の多発、北方四島、尖閣列島、竹島等々、一つの内閣、五年、十年では解決できない難問山積みです。先の衆議院選で小泉首相が歴史的な大勝を果た

企業の倒産が相次ぎ、日本の世紀どころか経済歴史上「日本の没落の世紀」になるのではないかと思われました。この失われた十数年の間、日本だけを置いて世界はま

し、官僚、族議員の抵抗でこの十数年もたまたしていた郵政民営化をはじめ、国内改革が進むことは国民にとっても本当に良かったと思います。

中国の経済発展が、人口が多いだけにすべての産業資材を呑み込み、利に敏い中国人ゆえにすべての産業資材が値上がり、産業界に打撃を与え

「二十一世紀は日本の世紀」と世界の著名な経済学者の間で共通認識にまでなっていました。二十世紀最後にパブル崩壊、デフレスパイラルに陥り、不良債権、過剰設備、大小を問わず銀行や

くはアメリカのフランドによるマネーゲームのデリバティブとして、原油の異常高騰が経済にさらに打撃を与えています。我々の扱うエコキュートもさることながら、トヨタをはじめ徹底省エネの日本製の自動車に俄然注目が集まっています。世界のトップメーカー・ゼネラルモーターの倒産すら噂されており、アメリカと違い省エネ、排ガス問題に日本のメーカーが早くから真剣に取り組んだ結果かと思えます。

日本は過去、急速な経済発展と引き換えに、公害問題、環境問題を経験しました。その苦勞と蓄積された技術力で世界に貢献し、二十一世紀は案外「日本の世紀」になるのかも知れないと私はほのかな期待をしています。皆様はどうお考えでしょうか。

資本主義は言うまでもなく、お互いに切磋琢磨し競争することで社会発展するシステムであり、競争は避けられません。それゆえ、適正価格だ、安売り防止と叫ばれても、どの業界でも改善されたという話は一向に聞いたことがありません。

本人は会社のために仕事をしているつもりですが、自分の会社のコ

ストを見ず、少しのマージンでもあればと、売値ひいては利益を削る競争は仕事ではありません。会社発展の妨害にすぎません。自社を破滅に導くだけです。社員一人ひとりに徹底したその自覚を促すことを組合員の経営者の皆様にお願ひし、同業他社が赤字にならない事、それが結果的に自社のプラスになることを今年はとくに訴えたいと思っております。本年もよろしくお願い致します。